

令和5年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

(その1)

目指す 学校像	一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校（夢を実現させる・取り組みを結実させる・地域とともに歩む）				
三つの方針	具体的目標		評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの 方針」（ス クール・ポ リシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標）○自己実現にむけて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財。 ○個性や多様性を相互に認め合うことができる、心豊かな人財。 ○学校で培った資質や能力を生かして地域社会に貢献できる人財。		B	B 小規模校の特性を生かし、一人一人の生徒に寄り添い、指導、支援する体制を確立する。 生徒の個々の進路目標を踏まえ、地域との連携を深めつつ、生徒の能力を引き出す学習活動、特別活動を展開する。 広報活動や地域との協働の機会を開発し、本校の教育理念を広く浸透させる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標）○主体的で対話的な授業の展開により対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための学習活動の展開。 ○学校が地域や社会 連携・協働しながら生徒の成長を支え、地域に貢献できる生徒の育成を図る。		B	
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標）○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守ろうとする生徒。 ○自分の進路を切り拓くために挑戦できる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協同して積極的に取り組む生徒。		B	
昨年度の成果と課題		重点項目	重 点 目 標		達成 状況
進路指導については、定期的な進路ガイダンスの実施、日常的な進路相談等により、生徒の意識、意欲が高まった。特に就職では、地元企業を中心に学校推薦による就職内定率が100%であり、進学、就職ともに、ほとんどの生徒が目標を達成した。生徒向け学校評価アンケートの結果によると、「学習に限らず、近い将来など目標をもって日々努力している」との回答が約80%であり、自己実現のために生徒が教職員ともに取り組む姿勢が見られる。また、「自他を尊重し、いじめをしていない」との回答は約97%である。良好な人間関係を構築し、生徒ファーストの精神で日常的な学習活動や進路指導、特別活動の充実をはかっている。 神栖市と市内3高校の包括連携協定が4年目を迎えた。新たな取り組みに挑戦するとともに、異校種間交流をさらに深める。開かれた学校づくりを推進するために、教育活動についての情報を発信し信頼感と連携・協働の意識を高める。		学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着を目指した生徒の学習習慣の確立 ② 主体的で対話的な学びができる学習態度と異なる価値をもつ他者と協働できる学習態度の涵養		B
		授業改善	③ 生徒による授業評価において授業満足度80%以上（KPI）となるような授業の工夫		B
		特別活動・部活動	④ 主体性の育成を意識した学校行事や生徒会活動、常任委員会活動の実施 ⑤ キャリアパスポートと学校行事や教育活動との積極的かつ効果的な紐付け ⑥ 健康で安全な生涯を意識させた教育活動や部活動の実施		B
		生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上		B
		進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化・課題設定による学習の習慣付け ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進		B
		地域・関連 機 関 と の 連 携	⑭ 関係諸機関との連携事業の実践（神栖3ココシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等） ⑮ 地域とともに歩む事業の実践（柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業） ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な発信		B
		働き方 改 革	⑰ 全職員の連携と業務の効率化 ⑱ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識の浸透		B

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	授業が楽しいと回答する生徒 80%	校内授業研修期間を設定し、指導方法を工夫して生徒が学びやすい授業環境をつくる。①②③⑤	B	B	・行事や各活動を探究活動と紐づけすることが、職員間でも浸透してきた。 ・次年度は、どんな活動や工夫をしたか、職員会議等で周知したい。
		ユニバーサルデザインを意識した人的環境をつくる。②③④⑩	B		
	学校が楽しいと回答する生徒 80%	行事や各活動において、目標に向かう態度を育成できる活動をする。②④⑫	B		
		行事や各活動へ主体的に取り組めるような掲示などを工夫する。②④	B		
進路指導	望ましい行動を引き出し、生徒の行動を強化する。	全教科でリアクションシートの通年実施を確実に行之、表現力の向上を目指す。①②⑩	B	A	・進路に対する保護者の理解をより高めること。出願指導の在り方など。 ・模試に対する生徒の意識付け、保護者理解の向上。 ・家庭学習のさらなる定着。 ・確かな学力の向上。ゼミの充実。
		生徒の意識を高める進路ガイダンスを実践する。⑩⑫	B		
	活発な言語活動を実践する。	I C Tを活用した授業や単元テストで言語活動の実践を促す。②③⑩⑫	B		
		進路ガイダンスや総合的な探究等に言語活動を組み込む。①②⑫	A		
	適切な進路指導をする。	3学年の最終進路決定 100%を目指す。⑪⑫⑬	A		
		2学年末までに 90%の生徒が希望進路を決定することを目標とする。⑩⑫⑬	B		
		適正な文書処理や真摯な生徒対応をする。⑫⑬	A		
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、正しい服装や礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	B	B	・T P Oに応じた制服の着こなし ・S N Sの使用方法 ・授業の開始時間を守る姿勢 ・教員の登校指導への参加率向上 ・ルールを順守する姿勢
		遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	B		
	健康・安全に対する意識の向上。	病気・交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑥⑧	B		
		登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑥⑧	B		
	携帯電話の使用マナー向上。	校則の理解を深めさせ、節度ある使用態度を育成する。⑦⑨	B		
		外部講師を招き、S N Sに関するマナー・トラブルを理解させる。⑦⑨⑭	B		
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る	全校清掃を実施し、組織的な環境美化活動を実践する。③⑥⑰	B	B	・生徒との協働を意識した全校清掃の充実。 ・心身の健康とスクリーンタイムについての指導。 ・学習環境の整備
		生徒委員会活動とリンクした安全管理を行い、保健安全に対する意識を高める。⑥⑧	B		
	健康に対する意識の高揚を図る。	全校清掃をはじめ生徒との協働をおし心身の健康の向上を目指す。③⑥⑰	B		
		健康の維持増進のための適切なデジタル機器使用について指導する。⑥⑭	B		
	防災意識を高める指導をする。	外部講師を招聘し、防災講話や避難訓練を実施することで、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑥⑬⑭⑮	A		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	「地域に寄り添う P T A」をモットーとして地域貢献に努める。⑭⑮	A	A	・高 P 連全国大会に向けてのスタッフの確保と協力態勢の確立。 ・創立 4 0 周年事業に向けての構想と準備。 ・渉外広報担当者の世代交代。
		マナーアップ活動への参加促進を行う。⑦⑭⑮	B		
	保護者・教職員とともに参加型の活動を促進する。	校内行事や企画への積極的参加を呼びかける。⑭⑮	A		
		保護者との協働によりコミュニケーションの向上をはかる。⑭⑮	A		
	P T A 広報誌の充実を図る。	学校からの情報発信を高めるとともに、広報誌の質的なアップをはかる。⑮⑯	B		
特別活動	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感を高め、学習や生活への意欲を高める。②⑤	B	B	・それぞれの個性を生かせる場を幅広く展開し、生徒主体の活動をさらに充実させていく。
	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。②④	A		
	部活動の活性化を図る。	地域のスポーツ人材と連携し、効果的な活動を目指した指導体制を整備する。④⑭⑮⑰	B		

A：大変良くできた
 B：良くできた
 C：普通
 D：やや不十分
 E：不十分

1 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	B	B	挨拶や身だしなみなど基本的生活習慣が多くの生徒は身につけてきている。自ら学ぶ意識が低いので、進路に対する意識を涵養していきたい。仲間と協力して活動すること姿が多くみられた。協調性をさらに育てていきたい。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。⑦	B		
	場面に応じた学び方を身につけ、基礎学力の定着を図る。	Classi や課外などを通して、自主的に学習する姿勢を養う。①②⑩	C		
		I C T教材と紙媒体を併用し、個々に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上に努める。①③⑩	B		
	特別活動への積極的参加や資格取得への挑戦を促す。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	B		
		資格取得に積極的に挑戦し、自分の強みを知り、活かすことのできる生徒を育てる。⑪⑫	C		
2 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	B	B	生徒同士の人間関係をよく観察し、適宜苦しい状況に置かれている生徒をフォローする。正しい情報を生徒に伝達し、全員が「納得できる進路決定」を目標に指導していきたい。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。⑦	B		
	場面に応じた学び方を身につけ、基礎学力の定着を図る。	Classi や課外などを通して、自主的に学習する姿勢を養う。①②⑩	B		
		I C T教材と紙媒体を併用し、個々に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上に努める。①③⑩	B		
	特別活動への積極的参加や資格取得への挑戦を促す。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	A		
		資格取得に積極的に挑戦し、自分の強みを知り、活かすことのできる生徒を育てる。⑪⑫	A		
3 学年	自己尊重の姿勢を身につける。	最上級生としての自覚と責任を持つ生徒を育てる。②④⑦	B	B	ほとんどの生徒が進路を決定することができた。卒業及び成年になるにあたり、社会人としての意識を持ち、T P Oに応じた適切な言動をとれるよう、また、自分を律することができるよう継続的かつ計画的に指導していきたい。
		相互に認め合い、謙虚な態度と寛容な姿勢を養う。②⑨⑪	B		
	自己練磨に励み、様々なことに挑戦できる人材を育成する。	授業に意欲的・主体的に参加し、自らの言葉で表現する生徒を育てる。①②③	B		
		検定やボランティアに挑戦し、自分を磨き、高める姿勢を養う。④⑦⑪	B		
	自己実現を図り、社会に貢献できる人材を育成する。	進路指導部や各教科と連携し、生徒の進路希望の実現に努める。⑩⑫⑬⑰	A		
		社会人としての広い視野や深い判断力を備え、自ら行動できる生徒を育てる。②④⑩	B		
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督促して、授業でも関連指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書き能力を養う。①⑪	A	B	検定試験に向き合う生徒が増加した。文章を的確に読解する能力の育成が課題なので、発展的な指導を心掛けたい。
		反復練習によって用言の活用をできるようにし、古典読解への基礎力を養成する。①②③	B		
	文章読解力を養う。	文章を的確に理解し、自ら意見・考えを持てる力を養う。①②	B		
地歴 公民	基礎・基本の定着と歴史的思考力・地理的判断力の向上を図る。	生徒の実態や場面に応じて板書やI C Tを活用した授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	A	A	授業でのI C T活用をさらに充実させる。基礎的・基本的事項の定着と、生徒が身近な課題を考察し、自分のことばで表現する力の育成を図る。
		諸課題を時間軸・空間軸を意識して自分に関連付けてして考察し、表現する力を養う。①②⑩	B		
	基礎・基本の定着と現代の諸課題を主体的に考察・判断する力を養う。	生徒の実態や場面に応じて板書やI C Tを活用した授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	A		
		社会に生きる一市民として現代の諸課題を自分に関連付けて考察し、表現する力を養う。①②⑩	B		
数学	基礎・基本の定着を図る。	電子教科書と板書を併用して、生徒の実態に合った授業を実践する。①③⑩	B	B	数検3級を1つの指標にし、生徒の基本的な計算力養成に努める。また、授業でのI C T活用を充実させ、空間図形の認知等に役立てたい。
		小テストなどで理解度を確認できるようにし、基礎・基本の計算力、応用力を段階的に高める。①③⑩	B		
	主体的に問題を解決する力を養う。	グループワークを行い、既習事項をもとに、問題を解く道筋を考えられるよう支援する。①②	B		
		生徒に数学検定の受験を勧め、対策ゼミを行い、合格率を上げる。①⑪	B		
理科	基礎・基本となる科学的知識・技能を定着させる。	板書やI C T教材を工夫し、生徒の実態に合った授業を展開する。①③⑩	B	B	日常の現象と学習内容を関連させ、基礎学力の定着をはかりたい。多様な授業を展開し、多面から生徒の能力を開発し、評価できるようにする。
		小テストや振り返りシートなどで生徒自ら理解度を確認する機会を設け、定着につなげる。①②⑩	B		
	身近な事物・現象に興味をもち、根拠を基に考え・説明する力を養う。	実験を的確に実施し、日常生活と関連させながら科学的現象を体験させる。①②③	B		
		口頭発表やプレゼンテーション・報告書作成など、発表する機会を積極的に設ける。①②③	B		

※ 評価基準 A：大変良くてきた B：良くてきた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

保健 体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	健康・安全に配慮し、主体的に学習に取り組む態度を養う学習活動を工夫改善する。②⑥	B	B	体育においては、生徒が自ら課題を発見し、その改善に向けて主体的に取り組んでいく姿勢を養わせていきたい。
		スキルテスト等を行い、運動技能の習得と課題解決に向けた姿勢を養う内容を増やす。①②③	A		
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。②③⑥	B		
		運動に関する理論を習得させ、健康の保持増進と体力の向上を目指す運動が継続できるようにする。①⑥	B		
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	基本的技術を身に付けさせる。①②	B	B	楽しく音楽にかかわる態度と習慣を育て、音楽に対する興味・関心を更にもたせる。
		様々な表現方法を体験させる。①②③	B		
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①②③	B		
		芸術についての理解を深め、主体的な学習態度を身に付けさせる。①②	A		
家庭	家庭に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	安心安全・衛生面に配慮し教具や実習室を整備し、主体的な学びができるよう活動を工夫する。①②③	A	B	感染対策の継続。授業での効果的なICT活用に向けて更なる研修をする。実習(被服、調理、実験)を通して理解、実践へとつなげていく。
		ICTを活用し視覚からの情報を得ることで確認・理解を深め実践する。①②⑩	B		
	家族や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	授業の学びを活かしてホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践し、家庭や地域生活の課題を解決できる能力を身につける。④⑤⑬	B		
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	生徒の実態に応じて教材を工夫し、授業において効果的に活用する。①②③	A	A	生徒の実態に応じ、教科内で話し合いを持ちながら、教材や指導法を工夫した。英検合格者数の維持、増加を心がけたい。
		生徒の進路実現に向け、英検受験を奨励し、対策ゼミを設け、合格率を上げる。⑩⑪	A		
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	授業における生徒の言語活動の機会を増やす。授業で定期的にプレゼンテーション等を行い、日頃の言語活動の成果を発表することで生徒の発信力の向上を目指す。①②⑩	A		
情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。	伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付ける。①②③	C	B	知識や技能については十分指導することができたが、情報を伝えたり表現したりする部分は、あまり時間を割くことができなかった。
		目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、問題の適切な解決方法を考える。①②③⑩	C		
	情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報社会における個人の果たす役割や責任、情報モラルなどを身に付ける。①⑦⑨⑩	B		
		情報と情報技術の適切かつ効果的な活用を身に付ける。①⑦⑨⑩	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分